



社会福祉協議会 だより

心配ごと、悩みごとの
ご相談はご遠慮なくどうぞ
会員内35-1270

令和3年度
事業計画・予算が決定しました。

3月22日および26日に開かれた理事会・評議員会において、令和3年度事業計画及び会計予算が審議され決定しました。主な項目は、次のとおりです。

○歳入歳出予算総額 50,994千円

○事業実施計画

1. 会務の運営

- (1)理事会、評議員会の開催
- (2)組織強化と会員増強促進
(自主財源の確保:会費、共同募金など)
- (3)関係機関、諸団体との連絡提携
- (4)役職員の資質向上促進(研修会など)
- (5)諸規程の整備

2. 地域福祉活動事業

- (1)児童福祉事業(子供会助成、保育所連絡協議会助成、黄色い帽子贈呈など)
- (2)老人福祉事業(ふれあいきいきサロン、ひとり暮らし友愛訪問、シルバーファッションショーの開催など)
- (3)母子・父子福祉事業(親子ふれあい旅行、天草郡母子寡婦福祉連合会への協力など)
- (4)身体障がい者福祉事業(心身障がい児(者)保護者会助成)
- (5)福祉啓発事業(福祉スポーツ大会、福祉レクリエーション講座)
- (6)調査広報事業(社協だより・子育て支援センター通信発行、ホームページ開設など)
- (7)生活福祉厚生事業(福祉機器リサイクル、福祉金庫貸付、チャイルドシート無料貸出など)
- (8)ボランティアセンター事業(ワークキャンプ、配食ボランティアへ助成など)
- (9)社会を明るくする運動(推進委員会、街頭啓発活動)
- (10)心配ごと相談(年6回)、弁護士による無料法律相談(年2回)

3. 受託事業

- (1)生活福祉資金貸付事業(コロナ禍に対応した特例貸付など)

- (2)地域福祉権利擁護事業(福祉サービス利用援助事業)
- (3)生活困窮者自立支援事業
- (4)子育て支援センター事業(子育て親子の交流の場の提供と交流の促進など)
- (5)地域包括支援センター事業(包括支援、介護予防支援、生活支援体制整備事業など)

4. 共同募金配分事業

- (1)老人福祉活動(老人クラブ助成、ひとり暮らし老人等友愛訪問費)
- (2)障がい児・者福祉活動(身体障害者福祉協会助成)
- (3)児童青少年福祉活動(子供会などへの助成)
- (4)母子父子活動(母子寡婦福祉連合会運営費助成)
- (5)ボランティア育成活動(ボランティアグループ助成、ワークキャンプ参加援助)

5. 民生委員児童委員協議会活動推進

- (1)会務の運営及び会計管理

6. 共同募金事業

- (1)事業推進及び会計管理、災害時支援

7. 日本赤十字社事業

- (1)事業推進及び会計管理、災害時支援

8. シルバー人材センター事業

- (1)シルバー人材センター運営(新規会員募集、受注調整、会計管理、会員向け講習会開催など)

新入学児童へ 「黄色い帽子」贈呈



苓北町社会福祉協議会では、皆様からいただいた共同募金配分金を財源に、4月9日の小学校入学式の日に、町内の新入学児童59名へ交通事故防止の願いを込め「黄色い帽子」を贈呈しました。

▷坂瀬川小学校…12名 ▷志岐小学校…31名
▷富岡小学校…10名 ▷都呂々小学校…6名



今回は、先生から新一年生に手渡していただきました(富岡小学校・4月9日)

※この事業は、共同募金地域配分金を財源としています。



〈プロフィール〉

苓北町志岐(浜之町)で、荒木家5人兄妹の三女として生まれる。末っ子で当時はわがままに育った部分もあったが、可愛がってくれた親には感謝をしていた。

志岐小～苓北中～天高を卒業した後、内田にあつた天草農業高校の苓北分室研究科で1年間洋裁を学ぶ。その後は、久恒の志岐炭鉱の経理課に5年ほど勤めた。勤め始めた頃は、給料日に銀行まで一人で大金を払い戻しに行っていたが、後に女性一人では危ないということでジープで連れて行ってもらえるようになった。そうした苦労をしたが、給料日にお金の入った封筒を炭鉱の鉱員さんに渡して喜んでもらえたことが、会計を担当していて何よりも嬉しい記憶として残っている。

その頃、仕事をしながら町の青年団活動をしていて、後にご主人となる達恵(さとし)さんが団長を、絹子さんが副団長を務めていて出会う。そうしてお付き合いをするようになった後、達恵さんが教員になった事を機に結婚となった。絹子さんが24歳の時で、結婚後は3人(男)の子宝に恵まれる。(現在は孫が9人、ひ孫が1人いらっしゃる)

達恵さんが玉名の中学校に2年勤めた頃、天草に教員が少なく地元出身者ということで、天草の大江中学校に赴任することになり7年間勤務した。そして五和中学校など15年ほど転勤を経験した後、苓北中学校に達恵さんが転勤になった事を機に、絹子さんは富岡の家(聞法寺)に入ることになった。

絹子さんにとってお寺の仕事はもちろん初めての事ばかりで、達恵さんの両親に指導してもらい日々勉強を重ねた。そして、絹子さんが48歳の時に京都まで資格を取りに行って、当時は珍しい女性の僧侶となった。それから12年ほどお寺の仕事と主婦として苦労をしたが、御門徒さん方に良くしていただき、子供のためにと頑張った。

達恵さんが定年後はお寺の仕事をされていて、絹子さんは主婦業に専念していたが、達恵さんが76歳で亡くなられる。悲しむ間もなく再びお寺の仕事を務めることになった。

それから(息子さんが学校の教員をされていらっしゃることもあり)現在は、お孫さんが住職を引き継いでくれているので安心だと絹子さんは笑顔で話されました。

(絹子さんが話された内容で掲載しております)

苓北町で、元気に生き生きと暮らしていらっしゃる『たっしゃかもん』を紹介します。

輝いています! たっしゃかもん

No.239

長年務めた女性僧侶。貴重な経験です!

瑞穂絹子さん

(昭和13年1月4日生まれ)満83歳 二丁目区在住

問 好きな食べ物

肉でも魚でも好きで刺身はたいがい毎日食べるけど、うなぎだけは苦手です。

問 好みの男性のタイプは

昔は、俳優の鶴田浩二さんのファンでした。映画に出られて良い役をされていたので、好感がもてました。

問 私の趣味

若い時は民謡とか踊りをしていて、全体的に音楽が好きです。今もCD10枚組の日本童謡全集(文部省唱歌など)を毎日聞くのが楽しみです。

問 私の健康法

家の廊下が長くて行ったり来たりするのが、健康に繋がっているかもしれません。あとは、私が毎晩の夕食作りを担当していて、自然と体に良い献立を考えていますし、美味しいと言つてもらえたたら嬉しいですね。

問 思い出

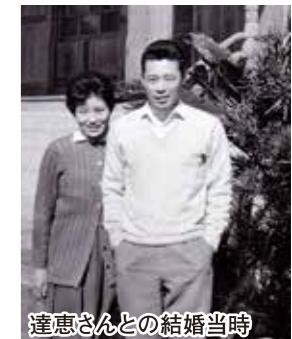
以前は、家族皆で1年に1回旅行を行っていました。今はこのご時世でなかなか行けないので、コロナが治まつたらまた皆で行きたいです。

問 若い世代へ伝えたいこと

それぞれ現在の仕事を頑張ってもらいたいですね。そして、町の未来を若い人で切り拓いていってほしいです。

問 町へのメッセージ

いろいろと行き届いていて、ここぞという時の団結力があって町がまとまっているので良いなと思います。例えば、コロナがほとんど出でていないですし。そして、高齢者に優しく配慮していただいているのが良いです。



▲炭鉱勤めの時、同僚に撮影してもらった記念の1枚